

七月例会 御案内

(令和元年・通算第六九八回)

公益財団法人 協和協会

○ 御案内

七月三十日(火)十一時半入館可、正午～午後二時半 衆議院第二議員会館地下一階第三会議室

講題 環境政策の諸課題について!

講師 原田義昭先生(環境大臣・衆議院議員。元文部科学副大臣・財務金融委員長・外務委員長)

当「公益財団法人 協和協会」の初代会長・岸信介総理は、昭和五十六年頃から、「資源のない日本の生きる途は科学技術立国しかない」といわれ、教育部会等々のほかに「科学技術部会」を設置されました。以来三十五年、科学技術部会は活動を続け、内部に環境技術委員会や新エネルギー委員会などを置いて研究してきております。

そうしたこともあり、今回は、環境政策に尽力されている原田義昭環境大臣にお願いにいたしましたところ、お快く御承諾下さいましたので、この日は、月例講話会兼科学技術部会主催として、表記のテーマにて、御講話をいただきます。貴重な御講話です。奮っての御参加、お待ち申し上げます。(清原記)

□ 当日会費(昼食付き) 会員は三千元、非会員五千元。

公益財団法人 協和協会 <http://www.kyowakyokai.or.jp>

七月三十日(火)の月例会に

電話 03-3581-1192

FAX 03-3507-8587

出席 欠席 (いずれかに○印を)

御芳名

当日連絡先 080-8836-6203 重田

080-9292-2620 高津

(メール不可・通話のみ)

貴方様の FAX
メール

七月二十六日(金)までに欠の御連絡賜りたく。

○ 御報告

七月には、四日に公示、同二十一日に投票日という参議院議員半数改選の通常選挙が行われるので、去る六月二十一日(金)正午より、「安倍政権の浮沈をかける七月決戦!」と題し、政治評論家の高橋利行先生(読売新聞元解説部長・論説委員・編集局次長・新聞監査委員長)に、衆議院第一議員会館地下一階第一会議室にて、御講話をいただいた。

その要旨を記すと、まず、「衆参ダブル選挙はあるのか」として、解散は総理の専権事項だから断定できないが、まずないだろう。過去には、一九八〇年と一九八六年の二回ダブル選挙があった。その前者は、自民党が過半数を占める中での内閣不信任案が予想に反して可決された「ハプニング解散」だが、この時は、大平正芳首相が選挙期間中に逝去して弔い合戦となり、自民党が勝利した。後者のダブル選挙は中曽根首相の時であるが追加公認を含め自民党は三〇四議席を取り大勝した。今回もしダブル選挙となれば衆議院が小選挙区となって初めてだが、ダブルとはならないと思う。次に「自民党は今回の選挙に勝てるか」だが、安倍首相の支持率は四〇数%と高いが自民党支持率は三〇%前後なのが不安材料だ。与党公明党の支持者が高齢化してきて力が弱まっているのも問題だ。安倍政権の政策で大きいのは安保政策だが、北朝鮮では拉致問題が解決できるか、ロシアとの北方領土交渉もまだ先が見えない。ホルムズ海峡での日本タンカーへの攻撃もある。しかし国民の選挙での関心は、外交よりも経済である。いま浮上している「年金二〇〇〇万円問題」もある。高橋先生は続いて「参議院通常選挙の情勢分析」に入り、複数区では自民党が一つは取れるが、複数区に二人立てているところが北海道、東京、千葉、広島と四区あり、そこで、二人のうち一人が票を取り過ぎると他の一人が落選となる。一人区は三十二あるが、青森、山形県では議席を取り戻せそうだが、滋賀、愛媛はどうなるか? 結論的には、自民党が少なくとも五十八～九議席は取れるだろう。自民党が勝てば、安倍四選へと向かうだろう等々分析され、大層勉強になりました。(清原記)

▽ 「公益財団法人 協和協会」とは

昭和四十九年、岸信介元総理によって創立された財団。活動趣旨は、「政党・派閥・利害・打算の次元を超えて、真に国家的課題を研究調査し、特に重要課題は、政府宛要請書を作って、時の政府へ提出することにある。昭和五十四年から本格活動に入り、月例講話会その他に八つの部会と、五～六の委員会があり、これまでに百三十七本の要請書を時の政府に提出している。第二代会長は福田赳夫元総理、第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、第四代会長は塩川正十郎元財務大臣、第五代会長代行として、江口一雄元衆議院議員、現在、第六代は代表理事兼会長代行として、岸信夫衆議院議員・安全保障委員長、元外務副大臣が就任している。

▽ 事務局電話 (03) 3581-1192 代表理事兼専務理事・清原淳平、総務 重田、高津

